

第79期 報告書

2025年4月1日～2026年3月31日

HRS HIROSE
ELECTRIC
CO.,LTD.

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

当社を取り巻く事業環境は、地政学的リスクの高まりやインフレの進行などにより、引き続き不確実性の高い状況が続いております。一方で、AI技術の進展により、社会インフラや産業構造そのものが大きく変わりつつあり、不確実性と明確な成長期待が併存する時代であると認識しております。こうした環境下においては、変化の兆しを的確に捉え、機動的に価値へと転換していくことが一層重要となります。その中で、電子機器の高性能化を支える接続技術の重要性は一層高まっており、当社の果たすべき役割もさらに拡大しております。当社は製品提供にとどまらず、顧客やパートナーとの共創を通じて新たな価値を創出し、「つなぐ」という概念をより広義に進化させていきたいと考えております。

今後も持続的な成長と企業価値の向上に取り組み、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。



代表取締役社長 鎌形 伸

■中長期の成長に向けて

2025年度の当社業績は、売上高2,112億円と過去最高を更新し、営業利益429億円（営業利益率20.4%）と増収増益を達成いたしました。売上高が2,000億円の節目を超えたことは、これまで進めてきた民生・自動車・産業機器の3本柱による事業ポートフォリオ構築と、新規成長市場への展開が着実に成果として結実したものと認識しております。

市場環境については、COVID19後の特需反動による調整局面を経て、産業機器市場は前年度比+32%と回復が鮮明となっております。スマートフォンを含む民生市場は、2024年度の急伸の反動により△3%と微減となったものの、自動車市場は+10%と引き続き堅調に推移しており、当社の3つの事業分野それぞれに成長機会が広がっております。また、2025年度に当社グループに参画したヒロセSER株式会社における半導体テスト製品事業も高い成長が見込まれ、当社グループの新たな成長ドライバーとして期待しております。これにより当社は、コネクタに加えて半導体周辺領域まで事業の裾野を広げ、顧客接点のさらなる拡充を図ってまいります。

2026年度は、売上高2,300億円、営業利益460億円（営業利益率20%）と増収増益を見込んでおり、中期経営計画として2029年度に売上高2,900億円、営業利益率23%、ROE12%以上の達成を目標として掲げております。これらの目標の背景に

ついてご説明いたします。

現在、AIやデータセンターの拡大に伴い、高速・高周波対応への要求が一段と高まり、その影響は産業機器分野へも広がっています。こうした市場構造の変化を背景に、当社の高性能コネクタの需要は着実に拡大しております。

一方で、金をはじめとする原材料価格の高騰や人件費の上昇など、コスト環境は引き続き厳しい状況にあります。このようなインフレ環境下においては、売上トップラインを拡大し、規模と付加価値の両面から収益力を高めていくことが極めて重要です。当社は現在、市場の追い風を捉えた成長局面にあると認識しており、積極的な成長投資を実行することで売上拡大を図りつつ、当社の強みである高い収益性との両立を目指しております。

これらを踏まえた上で、株主還元につきましては、DOE5%を基準とした安定的な配当政策のもと、増配を実施いたしました。今後も成長投資と還元のバランスを重視し、中期経営計画の期間は創出キャッシュフローの50~60%を事業投資に、40~50%を株主還元に分給する方針により、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。

当社はこれからも、変化する市場環境を確実に捉え、成長機会を着実に取り込みながら持続的な成長を実現してまいります。株主の皆さまには、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPIC インドに製造拠点を設立

当社は高い経済成長が見込まれるインド市場における車載ビジネス強化を目的として、タミル・ナドゥ州チェンナイ市に新たな製造拠点 HIROSE ELECTRIC CHENNAI PRIVATE LIMITED を設立しました。新製造拠点は、2027年夏に部分的な稼働開始を予定しており、今後拡大が見込まれるインド国内および近隣地域向け製品の供給能力を強化します。

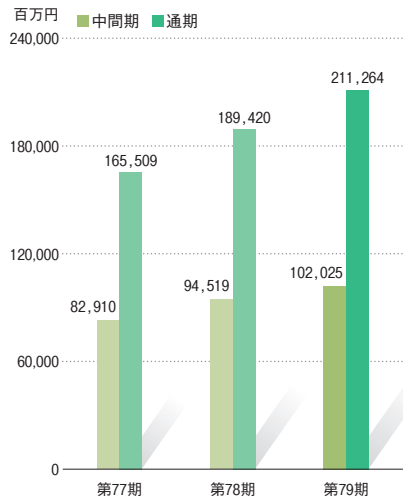
新工場の初期投資額としては10億円、新たに約100名規模の工場作業員の雇用を予定しています。

車載分野を中心とした生産拠点として、品質と生産性の両立を図りながら、インド市場における事業基盤の確立を進めてまいります。本取り組みを通じて、当社のグローバル生産ネットワークを強化し、市場対応力のさらなる向上を図ることで、グローバル展開の加速を目指します。

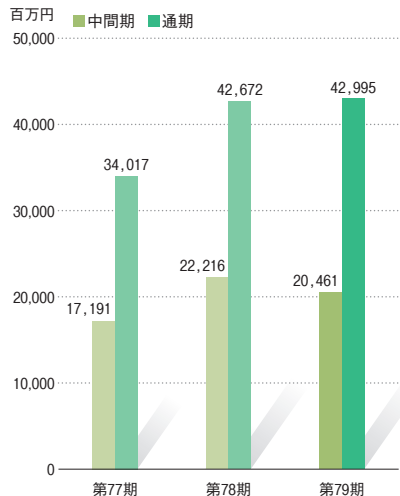


ヒロセ電機グループのインド拠点

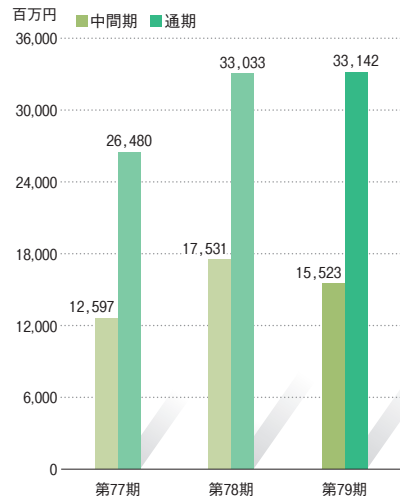
売上収益



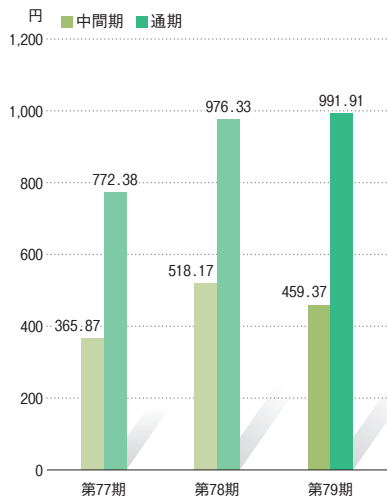
営業利益



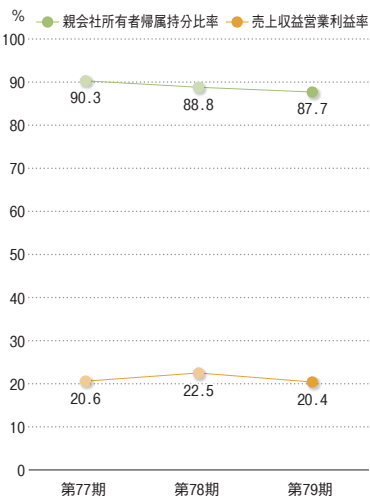
親会社の所有者に帰属する当期利益



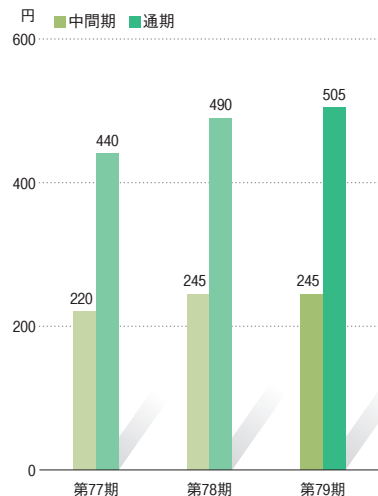
基本的1株当たり当期利益



親会社所有者帰属持分比率、売上収益営業利益率

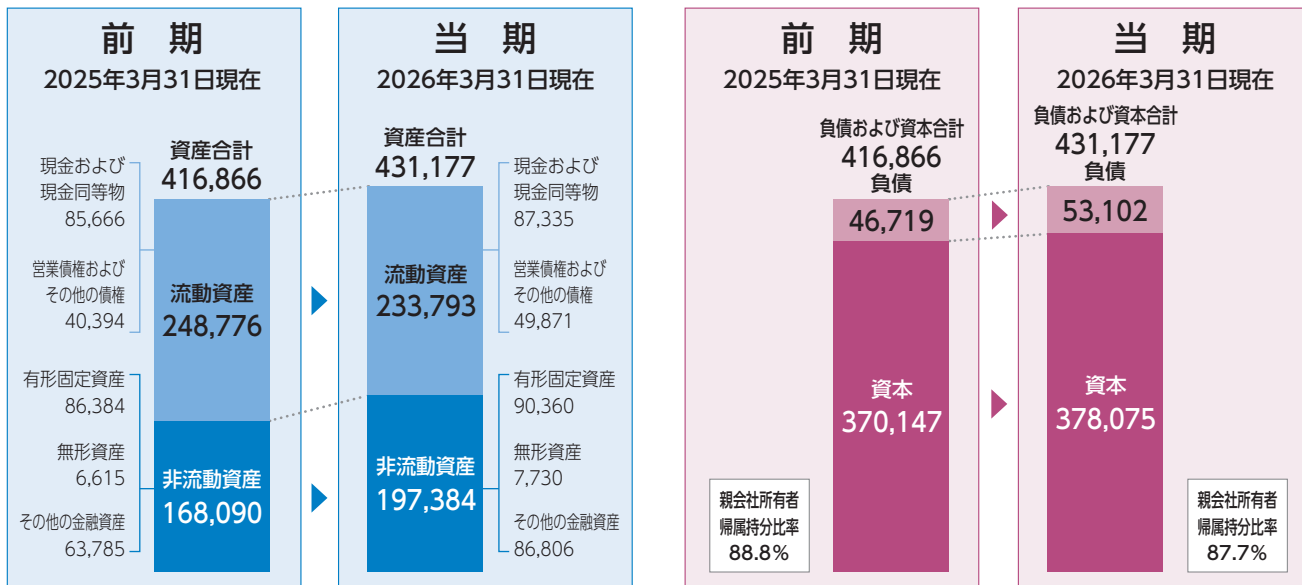


1株当たり配当金



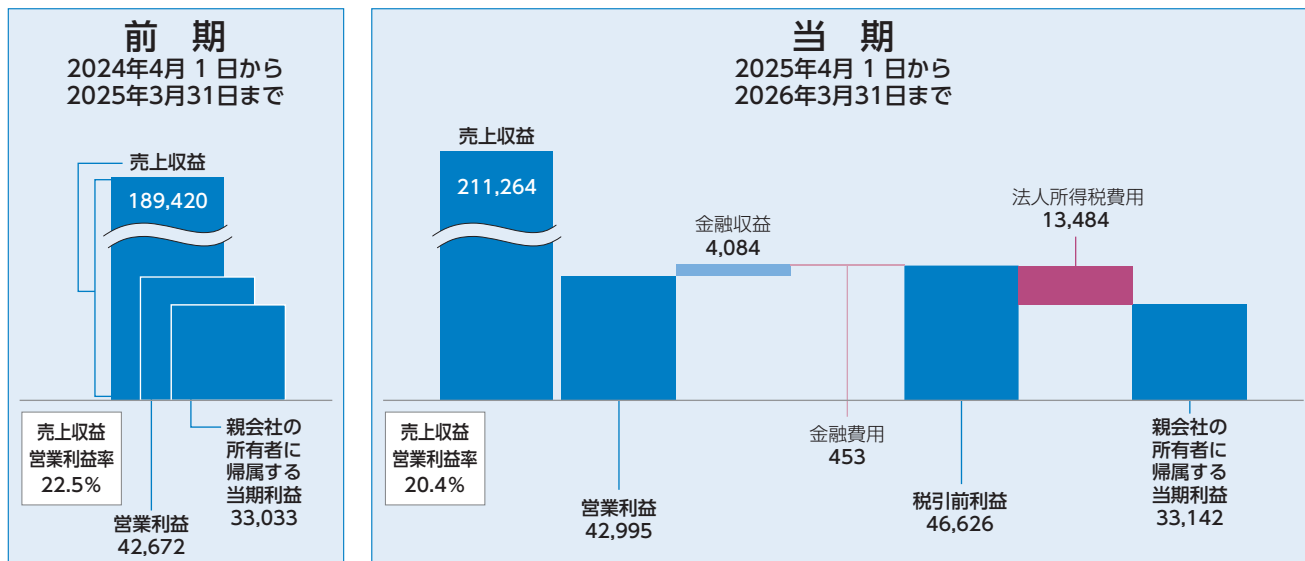
連結財政状態計算書の概要

(単位：百万円)



連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



CONNECTOR

コネクタはどのように生まれ、そして誰の役に立っているのでしょうか。
私たちの手で作られたコネクタが、どのような工程を経て製品に組み込まれ、
どのようにして人々の暮らしや社会を支えているのか。
「コネクタがつなぐ道のり」をわかりやすくご紹介します。

コネクタができるまで



ヒロセグループのコネクタ開発は、お客さまの設計や技術ト
レンドの仮説を立てるところから始まります。立てた仮説に
対するお客さまのフィードバックを受けるMR（マーケットリ
サーチ）というプロセスを経て開発する製品を決定します。

仮説検証 MR



ヒロセグループの設計技術者は HIROSE Philosophy の一つで
ある「先行・先端・差異化」を核としたオリジナル志向で設計を
行っています。ただオリジナル性が強いだけでなく実際に製造
現場がモノづくりしやすいことも良い設計の要素の一つです。

設計 開発



量産 組立



自動組み立て機



いよいよ、コネクタを組み立てる工程です。コネクタの組み立てには、大きく分けて2つの方法があります。一つは、
手動の組み立て治具によって組み立てる方法。もう一つは、自動組み立て機を使って大量に生産する方法です。自動
組み立て機を使えば、大量のコネクタを効率良く生産できますが、機械の設計や製造、組み立てラインの整備には時間
と投資が必要です。ヒロセグループでは、コネクタのサイズや生産数量の見通しに応じて、最適な製造方法を選び、
柔軟に対応しています。



最後に検査工程を通り梱包され、コネクタが完成します。

JOURNEY



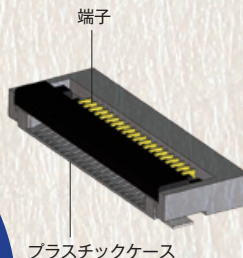
コネクタの材料はとてもシンプルです。基本的には電気信号を通す「金属」と、通さない「樹脂」。この2つの素材を組み合わせてコネクタは作られています。

材料・素材



【外部】
機器間を接続するコネクタ

【内部】
機器内を接続するコネクタ



個品加工



コネクタは、いくつもの「個品（ごひん）」と呼ばれる部品からできています。個品とはコネクタを作るための小さなパーツのことです。たとえば、金属を加工して作る「端子」や樹脂を成形して作る「プラスチックケース」などがあります。これらの個品の加工には、多くの協力会社の技術と知恵が活かされています。



コネクタ完成



後編へ

このような流れで、設計から製造まで様々な英知をつなぎながらコネクタは作られています。次回の後編でコネクタがお客さまのところへ運ばれ、実際の最終完成品に組み込まれるまでにどのような工程を経ているのかを見ていきましょう。

多極コネクタ



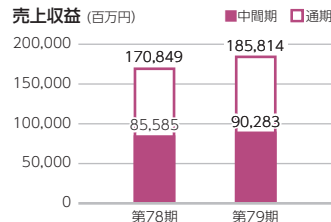
当社グループの主力製品群であります多極コネクタは、丸形コネクタ、角形コネクタ、リボンケーブル用コネクタ、プリント基板用コネクタ、FPC（フレキシブル基板）用コネクタ、ナイロンコネクタなど多品種にわたります。

主としてスマートフォン、通信機器、カーエレクトロニクスなどの分野から計測・制御機器、FA機器および医療機器などの産業用機器等の分野まで幅広く使用されているコネクタであり、今後のさらなる高度情報通信ネットワーク化社会および環境を考慮した省エネ化社会の進展とともに需要の拡大が見込まれております。

当期の連結売上収益は1,858億14百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益は367億67百万円（同6.7%減）となりました。

売上収益 **185,814**百万円（前年同期比 8.8%増）

87.95%



同軸コネクタ

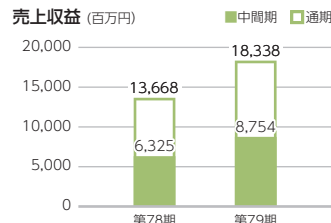


同軸コネクタは、マイクロ波のような高周波信号を接続する特殊な高性能コネクタであり、主にスマートフォンやパソコンなどの無線LANやBluetooth通信のアンテナ接続や自動車でのGPSアンテナ接続として、また無線通信装置や電子計測器の高周波信号接続として使用されるコネクタであります。なお、光コネクタ、同軸スイッチもこの中に含んでおります。

当期の連結売上収益は183億38百万円（前年同期比34.2%増）、営業利益は58億75百万円（同73.9%増）となりました。

売上収益 **18,338**百万円（前年同期比 34.2%増）

8.68%



その他の製品

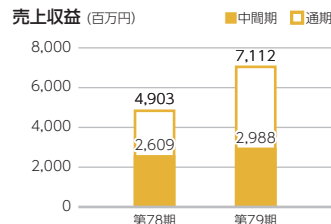


以上のコネクタ製品以外の製品として、半導体テスト製品、マイクロスイッチ類およびコネクタ用加工工具類を一括しております。

当期の売上収益は71億12百万円（前年同期比45.0%増）、営業利益は3億52百万円（前年同期は97百万円の営業損失）となりました。

売上収益 **7,112**百万円（前年同期比 45.0%増）

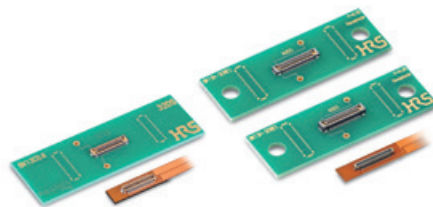
3.37%



▶各分野における取り組み

スマートフォン・コンシューマ

スマートフォンやウェアラブル機器、モバイル端末などを中心に、製品の小型化・薄型化と機能の高度化が進んでいます。こうした機器では、限られた内部スペースの中で基板とFPCを接続するインターフェースに対し、実装自由度の高さが重要な要素となっています。当社グループはこのような要求に対応するため、基板対FPCコネクタ「BK13」シリーズに新たなスタッキングハイトバリエーションを追加しました。BK13シリーズは、小型・高密度実装に適した基板対FPCコネクタとして展開しており、今回のバリエーション追加により、高さ方向の選択肢が拡充されています。これにより、多様な内部レイアウトや筐体設計に対応した設計が可能となります。



BK13シリーズ

一般産業機器

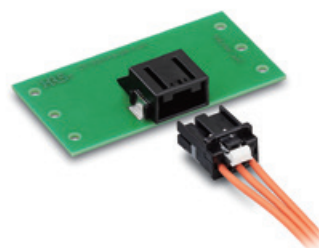
設備のネットワーク化や制御の高度化に伴い、小型で高信頼な通信インターフェースへのニーズが高まっています。当社グループはこうした要求に対応するため、産業機器向け通信コネクタのラインナップ拡充に取り組んでいます。その一例が、IEC規格に準拠した次世代産業機器通信コネクタ「ix Industrial™」シリーズに新たに追加した防水・防塵（IP67）タイプです。本製品は、ix Industrial™シリーズが持つ小型・高密度実装という特長を維持しつつ、防水構造を採用することで、水や粉塵のかかる環境下での使用に対応しています。これにより、設置環境の制約に配慮した機器設計が可能となります。



ix Industrial™シリーズ（防水・防塵タイプ）

自動車

当社グループのZE150HVシリーズは、電動化の進展により高電圧化が進む中で、安全かつ信頼性の高い接続技術へのニーズを背景に開発された高電圧対応コネクタです。こうした開発思想が評価され、ZE150HVシリーズは、世界最大級のテクノロジー展示会であるCES 2026において、CES Innovation Awards Honoreeを受賞しました。CESは、世界中の企業が最先端技術や新しい製品を発信する場であり、その中でInnovation Awardsは、将来性や独自性に優れた技術を表彰するものです。今回の受賞は、ZE150HVシリーズが次世代モビリティの進化を見据えた製品であることを示すものであり、当社グループの技術力が国際的に評価された結果といえます。



ZE150HVシリーズ

◎国内拠点

東北ヒロセ電機株式会社



一関ヒロセ電機株式会社



郡山ヒロセ電機株式会社



福岡出張所

広島営業所

関西支店

刈谷営業所

宇都宮営業所

盛岡ヒロセSER

ヒロセSER



菊名事業所



東北アドバンスト・テクノロジーセンター



本社



◎海外拠点

ヒロセエレクトリックヨーロッパ



広瀬電機(蘇州)有限公司



広瀬(中国)企業管理有限公司



ヒロセエレクトリックインド



広瀬電機(東莞)有限公司



ヒロセコリア



ヒロセエレクトリックUSA



ヒロセエレクトリックマレーシア



台廣電子股份有限公司



ヒロセエレクトリックシンガポール



広瀬香港有限公司
広瀬電機香港貿易有限公司



ヒロセエレクトリックインドネシア



会社概要 (2026年3月31日現在)

商号 ヒロセ電機株式会社
 設立 1948年6月15日
 従業員 連結5,110名 (パートタイマーを除く)
 資本金 9,404,379,401円

取締役 (2026年6月25日現在)

代表取締役社長	鎌形伸
取締役	小原秀
取締役	佐藤博志
取締役	郡司吉広
取締役	松永光生
取締役	李相燁
社外取締役	元永徹司
社外取締役	西松正記
社外取締役	坂田誠二
社外取締役	各務洋子
取締役(常勤監査等委員)	森敬
社外取締役(監査等委員)	三浦健太郎
社外取締役(監査等委員)	高嶋健司
社外取締役(監査等委員)	石田晴美

(注) 社外取締役 元永徹司氏、西松正記氏、坂田誠二氏、各務洋子氏、三浦健太郎氏、高嶋健司氏、石田晴美氏の7氏は、東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反を生じるおそれのない独立役員であります。

会計監査人 有限責任あずさ監査法人

株式の状況 (2026年3月31日現在)

発行済株式総数 35,693,969株
 株主数 3,824名

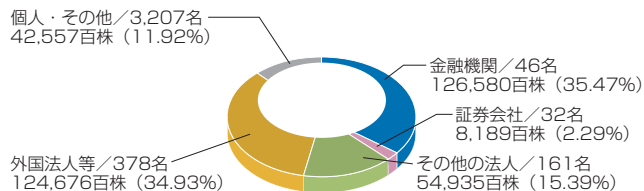
大株主 (上位10名)

株主名	持株数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	45,114百株
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	32,083
公益財団法人ヒロセ財団	31,476
ジェービーモルガンチェースバンク 380055	24,503
有限会社エイチエス企画	12,465
全国共済農業協同組合連合会	11,251
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505223	9,749
みずほ信託銀行株式会社(信託口) 0700210	8,707
みずほ信託銀行株式会社(信託口) 0700211	8,652
野村信託銀行株式会社(投信口)	5,920

(注) 上記大株主10名のほか、当社が自己株式28,900百株を保有しております。

株式分布

株式の所有者別状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
(そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。)

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

単元株式数 100株

公告方法 当社のホームページに掲載します。
(<https://www.hirose.com/corporate/ja/ir>)
ただし、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

インターネットホームページURL <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についての住所変更等のお届出およびご照会は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ヒロセホームページの注目コンテンツ！

① 統合報告書2025を
発行しました



② 東北アドバンスト・
テクノロジー
センターを増築

③ エス・イー・アール株式会社
を「ヒロセSER株式会社」に
名称を変更



④ 個人投資家の皆様へ

QRコードを読み込むと、該当のホームページ
にアクセスすることができます！

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。